



戦後日本とキリスト教

2月14日発売

敗戦の混乱期から社会制度の確立期まで

富坂キリスト教センター「編」

◆四六判・230頁・定価2200円

そのときキリスト教界は—— 「戦後80年」の原点を問う。

敗戦後の急激な社会変革に対して、キリスト教界はどのように対応したのだろうか。

占領期の宗教政策、キリスト教ブーム、共産党問題、在日コリアン教会、沖縄の土地闘争、キリスト教女子教育などの切り口から見えてくるものは何か。

戦後日本を形作り、今日にまで至るもろもろの制度が確立する頃のキリスト教界の姿を通して、「戦後80年」の意味と今後のキリスト教を考える上で、貴重な示唆に富む共同研究。



【目次より】

第二章 〈精神〉と〈物量〉

戦後占領期の宗教政策をめぐる

大久保正禎

第三章

戦後「キリスト教ブーム」に関する「試論
その実態に関する」考察

落合建仁

第四章

キリスト教と共産主義は水と油か
赤岩栄による共産党入党決意表明への反応の
考察

寒河江健

第五章

戦後在日コリアンとキリスト教界
一九四五年から一九六〇年までを中心に

李相勲

第六章

剣を取るものは剣で滅びる 伊江島土地闘争
と「沖縄キリスト教会」の交流

福山裕紀子

第七章

キリスト教学校と選択
「女性の教育」を手がかりに

渡邊さゆり

特別講演

敗戦直後の地方のキリスト教
長崎の場合

原 誠

戦後の賀川豊彦という難問

戒能信生

ユーモア入門

人生を楽しむ7法則

2月21日発売

宮平望 著

◆A5判・244頁・定価2310円

ユーモアを徹底的にまじめに考える。

神学者カール・バルトの標語は「力強く、落ち着いて、ユーモアをもって」だった。彼はナチ時代から冷戦期までの困難な時代を楽しんで生きた人生の達人だった。

ではユーモアとは何か？ 聖書から落語、さらには古今東西さまざまな類型のジョークを参看し、ユーモアの多様な在り方と本質を探る。読みながらつい頬が緩むこと請け合い。



宮平望（みやひら・のぞむ）氏は1966年生まれ。同志社大学、ハーバード大学、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学などで学ぶ。現在、西南学院大学国際文化学部教授、神学博士。著書には、『神の和の神学へ向けて』『責任を取り、意味を与える』

『「苦難を担い、救いへ導く神」』『戦争を鎮め、平和を築く神』、『現代アメリカ神学思想』、『神の和の神学入門』、新約注解「私訳と解説」シリーズ全12冊、『ジョン・マクマレー研究』、『ティスニールランド研究』などがある。詳しくは <https://miyahiraazonhome.wixsite.com/myste> を参照。

平和の福音に生きる 教会の宣言

◆小B6判・120頁・定価990円

日本キリスト改革派教会「平和宣言」と解説

2月21日発売

吉田隆、長谷部弘、弓矢健児、豊川慎 [著]

2023年の改革派教会の大会で採択された宣言は、今日と将来の教会がこの世に対して果たすべき責任を「平和をつくる」という視点から積極的に展開する。本書は、この宣言が一教派にのもののにとどまらず広く日本の教界で共有され、学びの素材とされることを願い、本文と共に、懇切な解説を施した。【刊行の遅れにより再掲載】

山本賢蔵著

静寂者ジャンヌ

生き延びるための瞑想「仮題」

絶対君主ルイ一四世の時代を生きた一人の女性。彼女は「異端の女性神秘家」として歴史の闇に葬り去られてきたが、その生涯を丹念に追うと、男性支配の「シンシニ」社会の中で自己を貫き通した、鮮烈な抵抗の生き様が浮かび上がる。原典と周辺資料を丹念に読み抜いた、日本で初となるギュイヨン夫人の本格評伝。

四六判・予価4400円

鈴木文治著

非戦と抵抗の教育

障害児教育の源流にあるもの

日本における障害児教育の源流を尋ねて信州教育に着目し、国家主義的な教育に抗して個性を尊重し非戦を唱えようとした教師たちの苦闘と挫折、その背後にあったキリスト教信仰に光を当てる。また著者自身の体験を踏まえ、自己責任を強調する現代の新自由主義的な風潮に抗してあるべき教育の姿を訴える。

四六判・予価2200円

パム・ロイ&モイラ・フンメル編著／赤坂桃子訳

ロゴセラピーのレッスンスズ 21の知恵「仮題」

ヴィクトール・フランクルの文章から21の短い章句を引用し、それに関連する目的、幸福、自由、自己超越、責任、ユーモアといった21のテーマを考察する。ロゴセラピーの考え方を通して自己発見のための手がかりをつかむガイドブック。

B6判・定価16500円

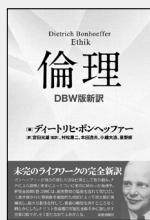
「12月刊行予定でしたが事情により遅れます」

● 1月に出た本と雑誌

倫理

DBW版新訳

ダイートリヒ・ボンヘッファー著／宮田光雄監訳



ボンヘッファーがライプワークとして取り組み、秘密警察による逮捕と刑死によってついには未完に終わった倫理学。長らく森野善右衛門訳「現代キリスト教倫理」として読み継がれてきたが、ここに新版

ボンヘッファー全集第6巻(DBW6)に基づく全く新たな訳が完成。ナチの監視下で慌ただしく書き継がれた草稿を徹底的な校訂に慌ただしく書き継がれた膨大な脚注を付したDBW版は、著者の構想を余すところなく明かにし、キリスト教倫理の可能性を鮮やかに指し示す。

◆四六判・定価6930円

福音と世界

◆定価6600円

2月号 特集IIボンヘッファー「倫理」の世界

—DBW版・新訳に寄せて

寄稿者：宮田光雄、村松恵二、星野修

本田逸夫、小嶋大造、岡野彩子

追悼 佐竹明先生(廣石望)／リレー連載『荊冠の神学』を読む4(佐々木結)／連載 インタビュー 女たちの闘い、田島卓、今高義也、長尾優、山口陽一、山崎ランサム和彦

出版部から

朋あり遠方より来る。W君とは20代半ば、共同使所・共同風呂のぼろアパートで知り合いました。每晚誰かの部屋で酒盛りしている騒々しい所で、私は修論を書けずに一年で逃げ出しましたが、同年の彼とは気が合いました。日本海側の町の工業高校を出て、太平洋側の町で建築のパーサーを書いていました。やたら物知りで、私にジャズ喫茶を教え、村上春樹を教え、葉巻やパイプまで教えようとしたものです。数十年ぶりに再会したW君は予想通りイケてるオヤジになっていました。「まだジャズは聴いてる？」と問うので「君が教えてくれた時から進歩してない」と答えると、数日後 Robert Gaspard なる人の10年前のアルバム COVERED が「最高だよ」の添え書きと共に届きました。一回聴いただけではピンときません。都会風の哀愁とミニリズム風の柔らかなピアノが綺麗だと思ふもの。ところが繰り返し聴く内に引き込まれていきます。注意して聴くと、最後の2曲はハリー・ペラフォンテ (!) の自分語り、警官に殺された黒人たちの名前を子どもが読み上げていく曲です。都会風の哀愁だと感じたものは、実は格差と分断を深めるアメリカへの悲しみだったのかも。最近

は毎日電車の中で聴いています。(小林)

販売部から

カール・バルトの主著『教会教義学』は、20世紀神学における最も重要な貢献の一つだと言われます。邦訳で36巻に及ぶ膨大で複雑な内容なので、通読はおろか全容を見通すことも困難です。初学者の私でも理解できるような、全体像を立体的に示し、遠くまで行く勇氣を与えてくれる適切な入門書があればと思つて手に取つたのが、『カール・バルト《教会教義学》の世界』(寺園喜基著、新教出版社)です。通読した際、行間に寺園先生の息吹が感じられ、『教会教義学』に取り組んでこられた先生の並々ならぬ熱意を感じさせられました。『神の言葉Ⅱ/2』の聖書論について、寺園先生は次のように解説しています。「バルトは聖書解釈の必要性を認め、聖書解釈の原則として、人間的言葉を通して啓示を理解するという意味での「傾聴」、人間的言葉を啓示から究明するという意味での「理解」、言葉を啓示との関係で説明するという意味での「解釈」、この三点を挙げるのである」。最近、旧約聖書を読み返す際、この箇所を参考にしています。他にも興味深い内容が記述されていますので、機会があればぜひ手にとつてお読みください幸いです。(坂谷内)

福音と世界

2025年
3

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共) 8760円

特集・キリスト教主義教育、現状と課題
そして意義と可能性

キリスト教教育の接続可能性 学部・学科

教育からの期待と応答責任 中村信博

戦時下バプテスマ特派教育機関の抵抗事例と

キリスト教主義教育 山中弘次

「他山の石」としての韓国キリスト教学校の

現状と課題 洪 伊約

日本と英国における道徳教育と宗教教育の課題

教育の「正しさ」を超えて 與賀田光嗣

牧師と教育 スウェットランド国教会における

牧師教育制度の課題と展望 藤守 麗

子どもを暴力から守るには 世界教会協議

会(WCC)の事例から 藤原佐和子

【時評】第一期トランプ政権と福音派2・0・0 加藤喜之
「リレー連載」『荊冠の神学』を読み直す5 鳥井新平

【好評連載】

◆ 女たちの闘い 声をつむぐ、織りなす 10 金筆順さん

◆ 証言としての旧約聖書 11 田島 卓

◆ 八木重吉の聖書 20 今高義也

◆ 私は告白する、私の神を 24 長尾 優

◆ 「日本的キリスト教」を読む 35 山口陽一

◆ 新約釈義 ルカ福音書 39 山崎ランサム和彦